

第3回与謝野町産業振興会議 会議報告書

日時 令和5年9月20日(水)午後6時30分～午後8時00分

会場 岩滝保健センター2階 会議室1、2

出席(敬称略)

西原 新介	佐々木 由美子	岩西 拓男	小林 厚美
砂後 隆正	戸田 健太郎	太田 桂史	青木 一博
小山 大介	長島 由昇	木原 綱雄	真柴 好雄
小谷 優衣			

欠席(敬称略)

堀井 健司	宮崎 輝彦	河邊 輝王
濱田 祐太		

事務局

産業観光課 市田課長	同 大上主幹	同 井上係長	同 西原主査
同 糸井主査	農林課 細見主査	社会教育課 井崎係長	
商工会 河邊経営支援員			

傍聴者 0名

<会議要旨>

1. 開会

2. 長島会長挨拶

- これからの地域を担う若者が活躍できる場の創出を目指して、皆様と一緒に議論していきたい。

3. 議事

(1)前回の振り返り(事務局説明)

- 「みんなやろうでまちづくり条例」+「地域経済分析報告書」から紐解く地域、事業者、町民が抱える課題の洗い出しを行った。
- 課題から見える新規事業、既存事業の拡充などの視点を持って今回は議論いただきたい。

(2)地域、事業者、町民が抱える課題から読み解く新規事業、既存事業の拡充などの提案について (グループディスカッション)

A班まとめ

- 「誰もが創業等にチャレンジできるための施策」について
 - ・創業に対する支援は一定あると感じているが、創業前の支援が必要ではないか。
 - ・具体的にチャレンジする場が必要。例えばウイルの空き店舗の活用。商業施設であれば一定の集客は見込める。いきなり個人で店舗を構え創業するよりは、チャレンジの場を経て独立の流れが良い。融資側も見極めやすい。
- 「地域内経済循環の促進と地域外からの財の獲得を目指すための施策」について
 - ・町内には福祉施設、学校給食、病院等給食(食事)を提供している施設があるが、そこで町内の米・野菜がどれだけ使われているか、また、なぜ町内の食材を使わないのか等の分析が必要ではないか。北部医療センターに話しをしたが、365日の供給、前日の発注等なかなか大規模農家でも物流面等厳しい現状があった。
 - ・ちりめんウェディングは面白い。高くても付加価値のあるもので勝負が必要ではないか。京丹後市はふるさと納税10億円を目標としているが、与謝野町と比較してもものづくりをする人の数や資源等も圧倒的に違う。尖ったもので勝負する必要がある。
 - ・住宅新築改修工事については、地域内経済循環が分かりやすく良いのではないか。
- 「次世代産業の担い手づくり及びデジタル技術活用推進のための施策」について
 - ・人材不足を逆手にとってPRしてはどうか。例えば、18歳まで子育て、教育に町税を投入したが、大学進学で町外に転出し就職、そして高齢になって帰ってくる、そんな悲しい町なんです、といったPR。
 - ・与謝野町にインターン、会社訪問・説明会等に来る都市部の学生に対して、交通費の補助をしてはどうか。やはり学生は与謝野町に来る交通費は負担となるのではないか。
 - ・民間1企業でリクルート活動するのは厳しいので、大きな枠で動く仕組みがあればありがたい。
 - ・福知山公立大学に対して町としても積極的なアプローチが必要ではないか。例えば、若者に訴求するSNS活動、インターンシップ等。

B班まとめ

- 現行の補助制度に対する意見について**
 - ・産業振興補助金等の現行の補助制度では、補助額が低く、手間がかかり、ありがたみを感じない。また、行政の補助制度は公平性、公正性、平等性を重視するため、広く薄くになりがち。
 - ・創業に係る資金調達については、金融機関の融資に頼るしかない。
- 新補助制度の設計に対する提案について**
 - ・補助額の増額対応(ふるさと納税を財源として制度設計・利用の低い制度の廃止)
 - ・提案内容の質に応じて補助額を決める自由で柔軟な制度設計(プロポーザルの実施等)
 - ・ターゲットを絞った制度設計(与謝野駅周辺地域の活性化・業種等)
 - ・創業前のプレチャレンジ支援(ウイルの空き店舗を活用したお試し創業支援)
 - ・町の機運、姿勢として産業振興を前面に推していることがわかる、見える体制づくり。創業者は金銭的にリスクを背負い、少なからず精神的な負担も大きい。制度の魅力ではなく、町の雰囲気、バッグアップ体制を魅力にするのも手法のひとつ。

- ⇒与謝野町であれば安心して創業・事業が継続ができるという雰囲気醸成
- ⇒町・商工会・金融機関が連携したバックアップ体制の構築
- 《求められるバックアップ事例》
- ・補助制度のワンストップ窓口の設置(補助制度リスト)
- ・創業に係る金融機関の融資に対する保証としての存在感
- ・行政×商工会×金融機関による強力なアフターフォローが見える体制

●移住定住・子育て支援・ふるさと納税に対する意見について

- ・単に創業、産業振興だけではなく、移住定住、子育て支援などあらゆる分野との連携が必要。
- ・ただ、移住定住、子育て支援、ふるさと納税等、全ての分野で京丹後市に遅れをとっている。
- ・結果として、京丹後市で創業⇒産業振興という流れができていない。
- ・ふるさと納税の返礼品も魅力を感じない。
- ・ふるさと納税の強化は必須
- ⇒米・たまご・醤油⇒たまごかけご飯という返礼品のパッケージ化。
- ⇒インフルエンサーの活用。
- ⇒返礼品の見せ方や、まず見たいと思えるサイトにするのも大切。
- ・移住定住支援の強化(コーディネーターの必要性)
- ⇒移住者が移住を決めるまでのマッチング、住居の案内支援で終わるのは不十分。
- ⇒移住者が住み始めてから感じる疑問、不安、地元住民との意識のギャップをすぐに聞ける存在、円滑に地元へ溶け込める対応を説明してくれる存在が必要。

●その他

- ・ちりめんウェディングは良い案で具体化できそう。

C班まとめ

●全体としての意見について

- ・創業補助金の上限額増加もしくは要件緩和。奨学金への支援。
- ・起業者、創業者が集まる、起業しやすいエリアの形成。
- ☆都市部の大学生がインターンシップにて与謝野町に来られた際に当町の自然や環境、人柄を絶賛されていた。したがって高校生や大学生など学生を対象とした早い段階における地域、企業の理解に向けた講座や交流、魅力発信がもっと必要。
- ・インターンシップ拡充や近隣の福知山公立大学や高校と協調して授業の一環として企業や当地域を知っていただく試みなど。
- ・総括としては、補助金の拡充などはお金を出して終わりといった短期的な支援で終わるため、時間がかかるが長期的な視点で☆印のような地域風土の醸成が必要。☆印にお金を投じる施策の立案。

4. 閉会